

2015年度版

環境活動レポート

高梁キャンパス



南あわじ志知キャンパス



岡山キャンパス



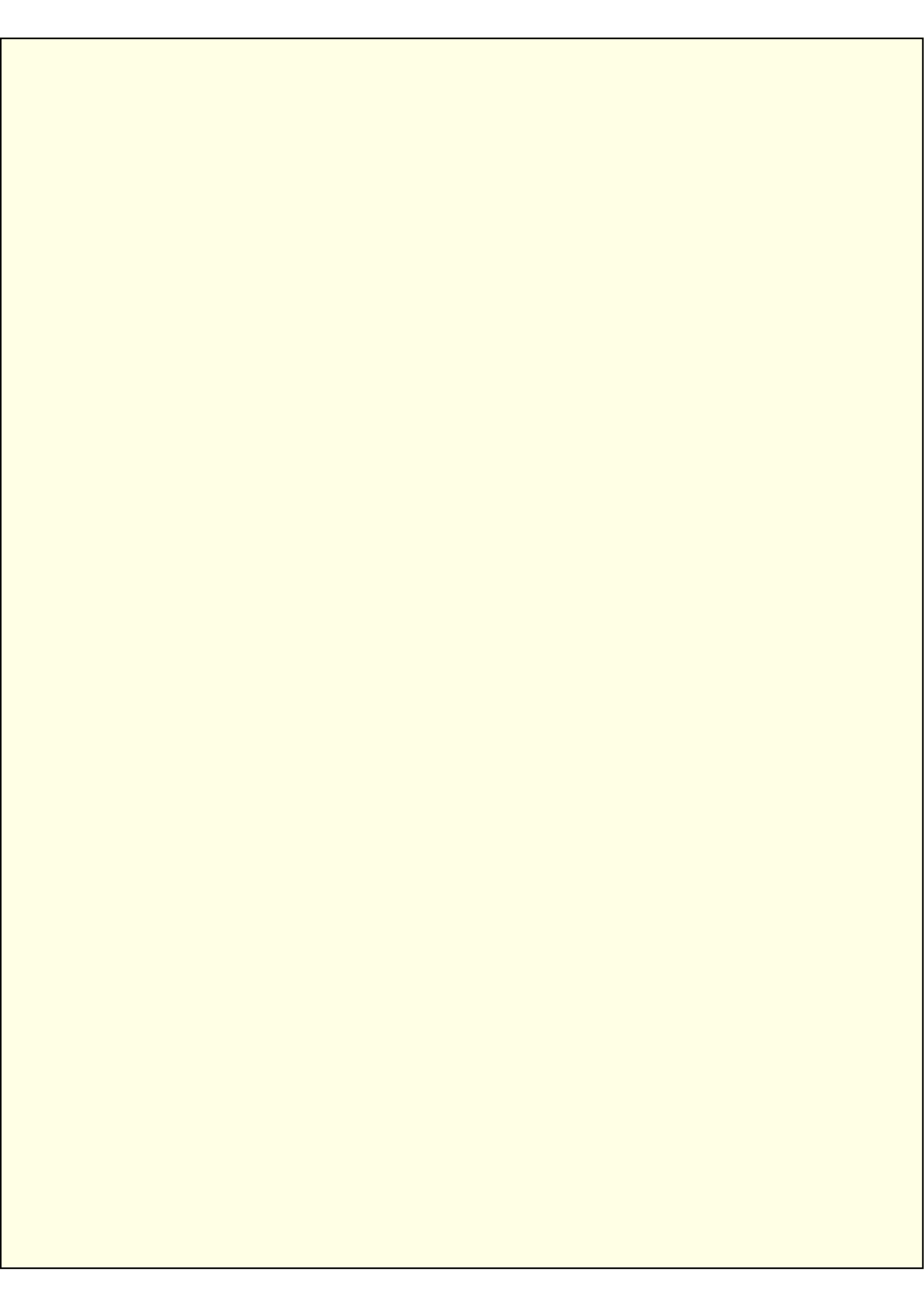
吉備国際大学

2016年10月

(対象期間:2015年4月~2016年3月)



吉備国際大学
KIBI International University



【目次】

1. 吉備国際大学の概要	1
1-1. 事業の概要	1
1-2. 建学の理念	2
1-3. 沿革	2
1-4. 組織	3
2. 環境方針	4
3. 吉備国際大学環境マネジメントシステム	5
3-1. EMS取り組み対象範囲	5
3-2. EMS取り組み組織	5
4. 環境目標と実績	6
4-1. 2015年度環境目標と目標達成状況	6
4-2. 環境負荷等の経年状況	7-9
4-3. グリーン購入推進の取り組み	10
4-4. 化学物質の適正管理	10
5. 環境活動計画と取り組み結果の評価	11
5-1. 目標達成のための具体的活動(2015年度)	11
5-2. 環境目標の達成手段と取り組み状況の評価	12
6. 環境教育の推進の取り組み	13
6-1. 全学の実施状況	13
6-2. 環境関連科目の開講	14
6-3. 環境教育研修の実施	15
7. 学内の環境美化と喫煙対策	16
7-1. 環境美化の取り組み	16
7-2. キャンパス内の喫煙対策	16
8. 取り組みの様子	17
8-1. 学内へのEMS活動の周知	17
8-2. 適切なごみ分別とリサイクル化	18
8-3. 環境コミュニケーション	18
8-4. EMS学生委員会の取り組み	19-20
9. 内部環境監査	21
10. 環境関連法規の遵守と違反状況, 訴訟等の有無	22
11. 環境代表者による全体評価と見直しの記録	23

1. 吉備国際大学の概要

1-1. 事業の概要

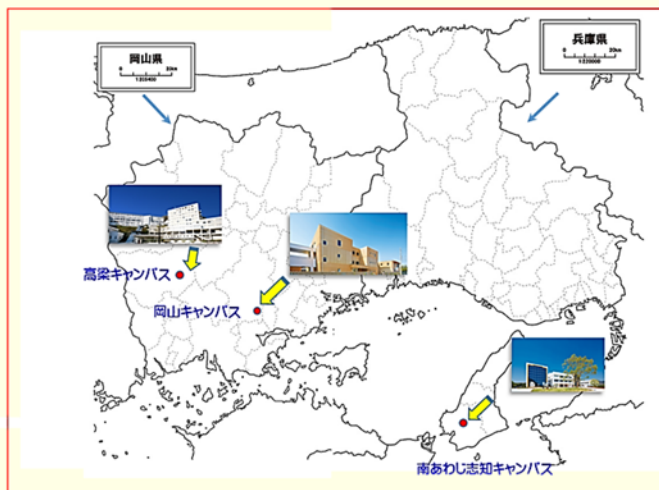
- ・事業所名： 吉備国際大学
- ・代表者： 眞山 滋志
- ・事業内容： 教育研究機関
- ・所在地：〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8 (高梁キャンパス)
 〒656-0484 兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1 (南あわじ志知キャンパス)
 〒700-0931 岡山県岡山市北区奥田西町5-5 (岡山キャンパス)
- ・総括環境管理責任者： 小田 淳子 (社会科学部 経営社会学科 教授)
 TEL&FAX:0866-22-9387
 E-mail:oda618@kiui.ac.jp

・事業の規模

	単位	2012年度	2013年度**	2014年度***	2015年度
教員数	人	148	155	144	148
非常勤講師数	人	152	143	170	190
職員数	人	55	65	65	69
学部生数	人	1938	1,862	1,872	1,873
大学院生数	人	171	78	71	59
総人数*	人	2,464	2,303	2,307	2,339
敷地面積	m ²	189,513	258,362	262,344	262,344
延べ床面積	m ²	33,857	46,279	50,270	50,270

(* 通信制を含まない ** 南あわじ志知キャンパス開設 *** 岡山キャンパス開設)

・各キャンパスの位置関係



高梁キャンパスマップ



1-2. 建学の理念

学校法人 高梁学園

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

Mission Statement

Our aim is to maximize students' individual potential and develop good citizens in both local and international communities.

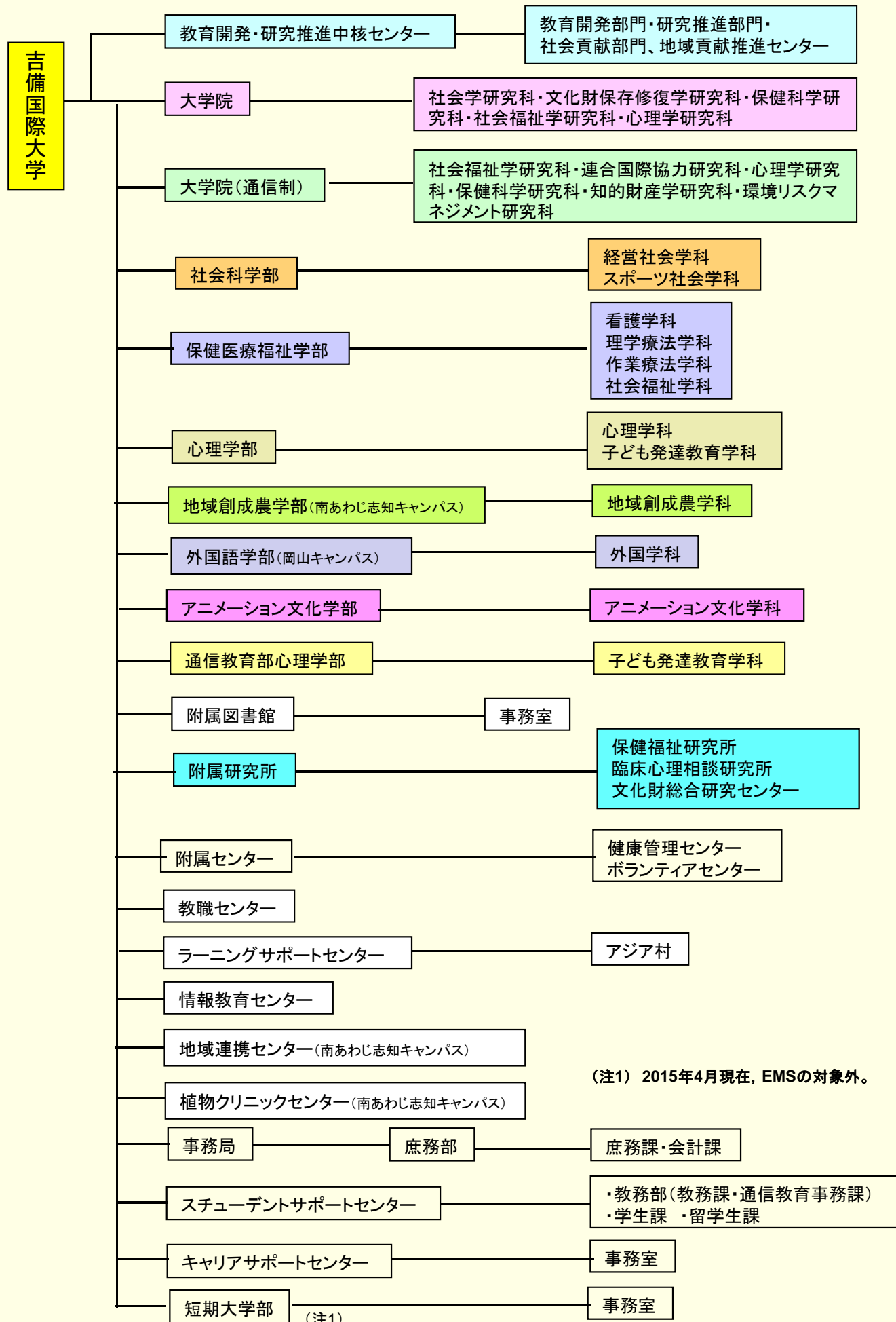
1-3. 沿革

昭和42年(1967)	文部大臣より学校法人高梁学園の設置を認可される
平成元年(1989)	文部大臣より吉備国際大学の設置を認可される
平成2年(1990)	吉備国際大学社会学部を開設
平成7年(1995)	保健科学部, 社会福祉学部を増設
平成7年(1995)	大学院 社会学研究科 社会学専攻 修士課程を開設
平成9年(1997)	大学院 社会学研究科 社会学専攻 博士(後期)課程を開設
平成11年(1999)	大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程を開設
平成12年(2000)	大学院 保健科学研究科 保健科学専攻 修士課程を開設
平成13年(2001)	大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士(後期)課程を開設
平成14年(2002)	大学院(通信制) 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程を開設
平成16年(2004)	大学院 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程を開設 政策マネジメント学部を増設
平成17年(2005)	大学院 文化財保存修復学研究科 文化財保存修復学専攻 修士課程を開設 大学院 保健科学研究科 保健科学専攻 博士(後期)課程を開設
平成18年(2006)	大学院 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 博士(後期)課程を開設 大学院(通信制) 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 博士(後期)課程を開設 大学院(通信制) 国際協力研究科 国際協力専攻 修士課程を開設
平成20年(2008)	大学院(通信制) 保健科学研究科 理学療法学専攻 修士課程を開設 大学院(通信制) 環境リスクマネジメント研究科 環境リスクマネジメント専攻 修士課程を開設 大学院(通信制) 知的財産学研究科 知的財産学専攻 修士課程を開設 国際環境経営学部 環境経営学科として開設
平成22年(2010)	「高梁学園吉備国際大学」から「順正学園吉備国際大学」へと改称 文化財学部アニメーション文化学科及び短期大学部を開設 大学院心理学研究科心理学専攻修士課程を開設
平成25年(2013)	地域創成農学部を増設 (南あわじ志知キャンパス) 社会科学部経営社会学科を開設
平成26年(2014)	アニメーション文化学部アニメーション学科を開設 外国語学部外国学科を開設 (岡山キャンパス)

1-4. 組織

(環境マネジメント活動対象範囲)

2015年6月改訂



2. 環境方針

吉備国際大学環境方針

基本理念

吉備国際大学は、「日本人としてのメンタリティと国際人としてのセンスを兼ね備え、豊かな人間性と専門性を有する、社会に有為な個性ある人材を養成する」ことを教育目標として掲げています。この教育理念を踏まえ、教育・研究、地域貢献、国際交流などの活動において、環境との調和と共生を図るとともに、地球環境に配慮して行動することができる人材の育成を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

基本方針

1. 教育・研究活動及びそれに付随する活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルの推進、化学物質の削減、グリーン購入の推進に努めます。
2. 環境マネジメントシステムを確立し、教職員及び学生の環境意識を啓発するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直し、その継続的な改善を図ります。
3. 大学の教育活動を通じ、学生の環境意識の醸成に努め、地球環境に配慮して行動できる人材の育成に努めます。
4. 学内の教育・研究活動においては、環境関連の法令、条例及び協定を遵守します。
5. この環境方針を達成するため、目標を設定し、学内の教職員、学生及び常駐する委託会社の職員が一致協力してその達成を図ります。
6. この環境方針は、学内の教職員、学生及び常駐する委託会社の職員に周知するとともに、広く一般にも公開します。

2015年 4月 1日

吉備国際大学学長 眞山 滋志

3. 吉備国際大学環境マネジメントシステム

3-1. EMS取り組み沿革

吉備国際大学では、2008年4月にエコアクション21 (EA21)取り組みを表明し、2010年5月にEA21の認証・登録をうけて以来、継続してEA21活動を展開してきました。2013～2014年度に南あわじ志知キャンパスおよび岡山キャンパスが開設されたことを受けて、2014年5月からは、自己宣言によるEMS活動を全学的に展開しています。EA21認証により構築したEMS運用体制下で、環境目標達成にむけて、環境負荷削減、地球環境に配慮して行動できる人材育成、環境関連の法遵守、環境教育及び研修、グリーン購入推進、化学物質の適正管理等に関する取り組みを行っています。

3-2. EMS取り組み対象範囲

(1)対象サイト

吉備国際大学 高梁キャンパス (吉備国際大学1号館～15号館, 吉備国際大学附属施設)
岡山キャンパス(1号館, 2号館),
南あわじ志知キャンパス(A・B・C・E棟)

(2)所在地

高梁キャンパス (〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8)
岡山キャンパス (700-0931 岡山県岡山市北区奥田西町5-5)
南あわじ志知キャンパス (〒656-0484 兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1)

(3)活動と対象者

1)活動

①教育 ②研究 ③オフィス活動 ④学生の活動

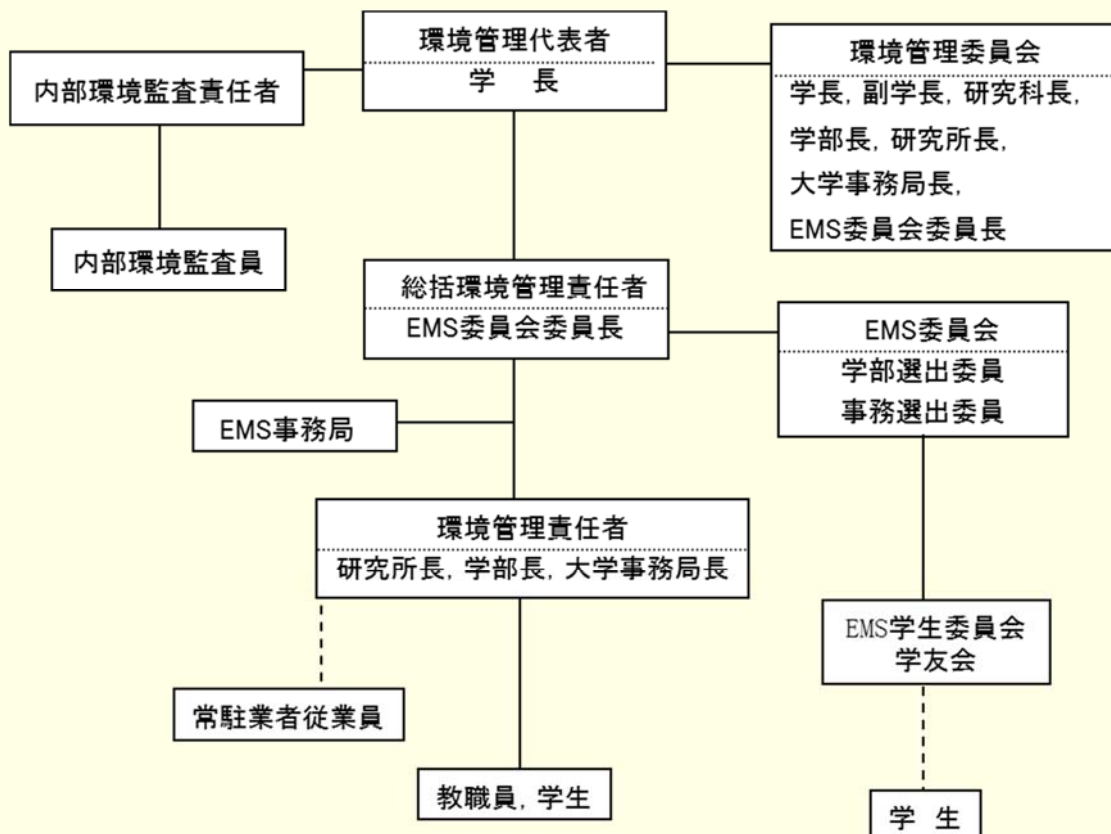
2)対象者

①教員 ②事務職員

3)準構成員

①学生 ②常駐業者従業員

3-3. EMS取り組み組織



4. 環境目標と実績

4-1. 2015年度環境目標と目標達成状況

吉備国際大学では、EMS活動の取り組みにおいて、「電力消費の削減、化石燃料消費の削減、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物発生量の削減、水使用量の削減、印刷用紙使用量の削減、化学物質の適正管理、グリーン購入の推進、環境教育の推進、大学周辺の環境美化」の10項目に関する環境目標を定めて、全学的に活動をしています。

2015年度は、吉備国際大学独自の環境マネジメントシステムが全学的(高梁・南あわじ・岡山の3キャンパス)に開始されて2年目でした。高梁キャンパスでは、2013年度実績を基準年度として、2015年度目標を設定しました。南あわじ・岡山の両キャンパスは、学部の完成年度までデータの蓄積を進めているところです。

下記に、2015年度目標と実績値、単年度目標および中長期目標(2014~2017年度)に対する実績評価をまとめています。全般的に目標を達成することができました。

【高梁キャンパス】

環境目標	基準年度実績 ¹⁾	2015年度目標 (基準年度比)	中長期目標 ²⁾ (基準年度比)	2015年度実績		評価 ⁴⁾ (単年度) (中長期)
		目標値	目標値	実績値	基準年度比	
電力消費の削減	2013年度	-2 %	-4 %	2,575,371 kwh	-	○ ○
	2,920,527 kwh	2,862,116 kwh	2,803,706 kwh			
化石燃料消費の削減	2013年度	-2 %	-4 %	4,716,770 MJ	-9.4%	○ ○
	5,203,481 MJ	5,099,411 MJ	4,995,341 MJ			
二酸化炭素排出量の削減 ³⁾	2013年度	-2 %	-4 %	1,810,470 kg-CO ₂	-7.6%	○ ○
	1,958,595 kg-CO ₂	1,919,423 kg-CO ₂	1,880,251 kg-CO ₂			
廃棄物発生量の削減	2013年度	-2 %	-4 %	38,038 kg	-23.9%	○ ○
	49,970kg	48,971 m ³	47,971 m ³			
水使用量の削減	2013年度	-2 %	-4 %	22,613 m ³	-14.5%	○ ○
	26,448 m ³	25,919 kg	25,390 kg			
印刷用紙使用量の削減	2013年度	-2 %	-4 %	2,175,500 枚	-14.7%	○ ○
	2,551,000 枚	2,499,980 枚	2,448,960 枚			
化学物質の適正管理	-	対象物質の保有量把握と管理強化		対象物質の保有量を各部署が記録し保管。		○
グリーン購入の推進	-	特定品目のグリーン購入比率70%以上		グリーン購入比率(文具4品目と再生紙購入)95.1 %		○
環境教育の推進	-	年1科目以上の全学共通環境教育科目の開講		全学共通環境科目を開催		○
大学周辺の環境美化	-	月1回以上の環境美化活動		大学周辺のごみ拾い環境美化月間の全学行動喫煙マナーの対策		○

注1) 2014年度より活動評価の対象範囲を見直した。新たな基準年度(2013年度)の実績は見直し施設の算定値を採用。

注2) 「中長期目標」における「中長期」とは、「2014年度から2017年度まで」を指す。

注3) 「二酸化炭素排出量」算定における排出係数については、その値を「0.579(代替値)」とした。

注4) 評価の判定 「○:達成できた」、「△:ほぼ達成できた」、「×:達成できず」

4-2. 環境負荷等の経年状況（自己宣言EMS活動・2年目の評価）

★昨年度の「環境負荷項目等」の実績について、概要をまとめました。

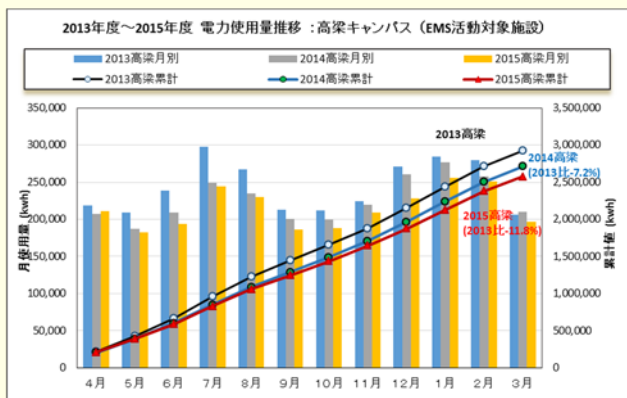
昨年度の実績（高梁キャンパス）は、電気使用量・水道使用量・灯油使用量・廃棄物使用量、印刷用紙使用量の全てで、単年度目標および中長期目標ともに、目標達成をすることができました。2015年度の環境活動にあたり、教職員一同で協力をして活動した成果と考えられます。一方で、施設によっては、前年度比の大幅増加も見られました。増加の要因を明らかにして、削減の対応を図る必要のあることがわかりました。

☆☆ 各項目の概要 ☆☆

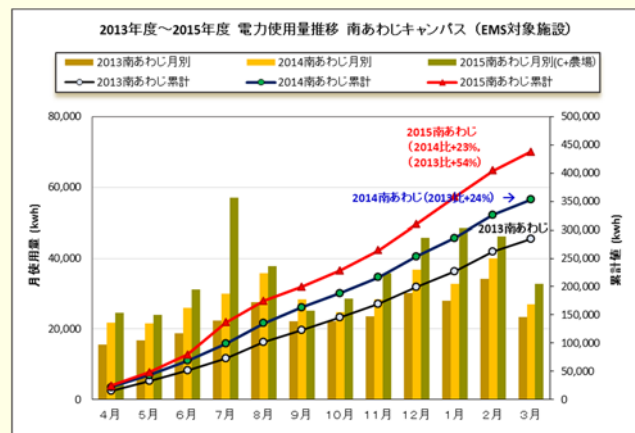
- 環境負荷項目（電力・水道・化石燃料（灯油，ガス）の推移
 - 高梁キャンパスでは、全学的に順調に削減した。
 - 施設による使用量増加が見られたので、原因と対策を明らかにする。
 - 南あわじキャンパスは3年目を迎えて、授業や研究の実績量に応じた増加が見られた。
 - 岡山キャンパスは2年目を迎えて、学年増による緩やかな増加が見られた。
- 廃棄物排出量の推移
 - 燃えるゴミと不燃ごみの排出量は削減目標を達成した。
 - 資源ごみのうち、容器包装類（カン・ブン・PET）が年々増加して分別状況が低下した。
- コピー紙使用量の推移（高梁キャンパス）
 - 昨年度より削減が見られて、目標値を達成した。
- グリーン購入品目の納入実績と品目（高梁キャンパス）
 - 2011年度に全学取り組みと対象品目が周知されているが、目標を達成できた。

(1) 電力使用量の経年変化

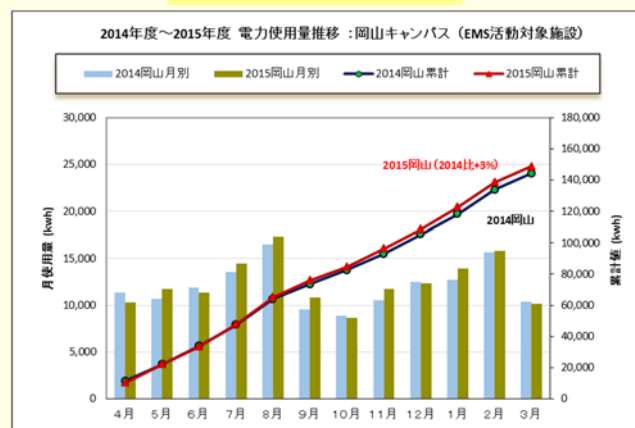
—高梁キャンパス—



—南あわじキャンパス—



—岡山キャンパス—



★高梁キャンパス

基準年度(2013年度)に対して、2015年度は-11.8%の削減が見られており、単年度目標値(-1%)、中長期目標値(-2%)ともに達成した。

★南あわじキャンパス

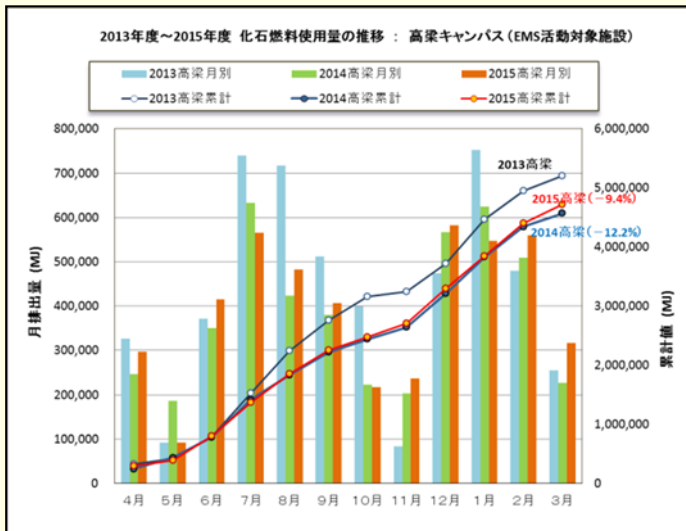
2015年度は、学部開設年度(2013年度)に対して+54%の増加、前年度実績に対して+23%の増加になった。これは学生が3年次生に増えたためである。

★岡山キャンパス

2015年度は、開設年度(2014年度)に対して+3%の増加になった。これは、学生が2年次生まで増えたことによる。

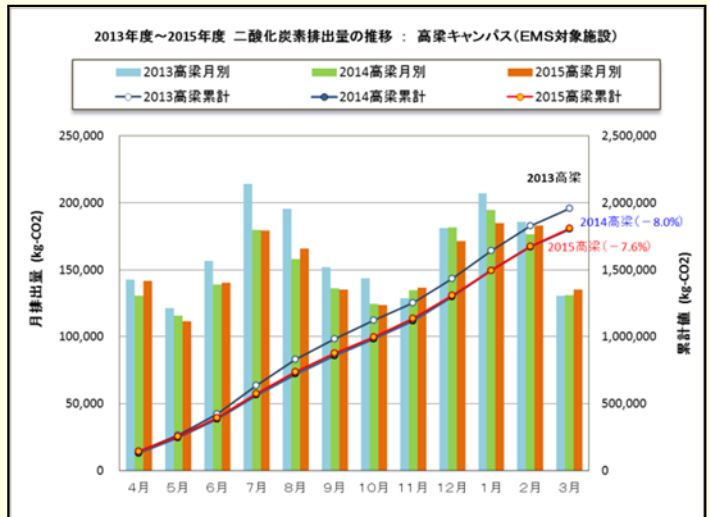
(2) 化石燃料の使用量 —高梁キャンパス—

「化石燃料使用量」は、学内で使用する灯油及びガス量の合計を示す。2015年度累積値は基準年度比(2013年度)に対して-9.4%を示し、短期目標(-1%)、中長期目標(-2%)を達成したが、昨年度比で増加した。これは、新たに開設された地域医療福祉センター(スキルラボ)で、空調機稼働による燃料消費(灯油)が増大したためである。



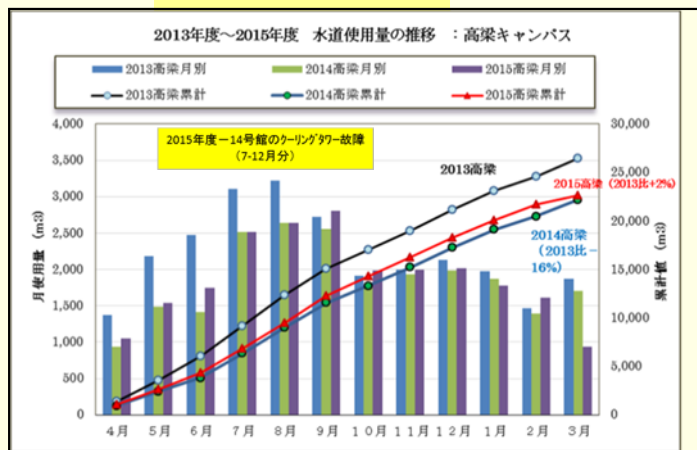
(3) 二酸化炭素の排出量 —高梁キャンパス—

「二酸化炭素排出量」は、電力・灯油・ガスの使用量から算定した。4月、11月、2月、3月のデータは基準年及び昨年の同時期を上回ったが、2015年度累積実績は、基準年度比(2013年度)に対して-7.6%を示し、短期目標(-1%)、中長期目標(-2%)を達成した。



(4) 水使用量の経年変化

—高梁キャンパス—



★高梁キャンパス

基準年度(2013年度)に対して、2015年度は-15%の減少が見られ、単年度目標値(-1%)、中長期目標値(-2%)ともに達成した。しかし、前年度比では+2%であり、クーリングタワー故障(14号館)が増加の要因となった。

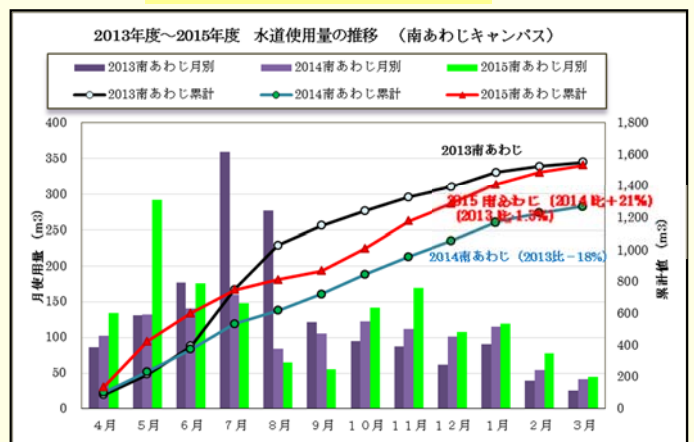
★南あわじキャンパス

2015年度は、学部開設年度(2013年度)に対して-1.3%であるが、前年度比に対し+21%の増加になった。これは学生が3年次生に増えて実験系授業も増えたことによる。

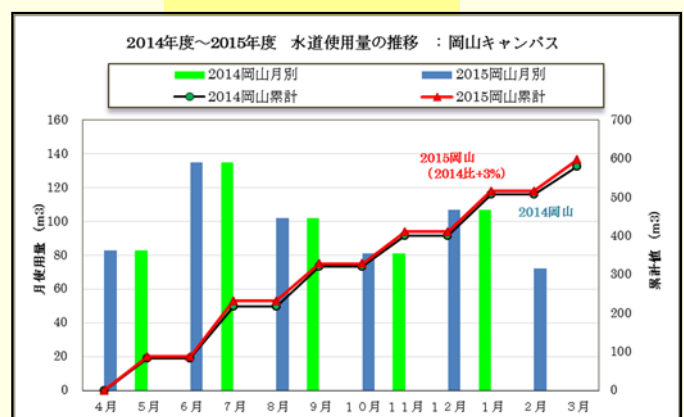
★岡山キャンパス

2015年度は、開設年度(2014年度)に対して+3%の増加になった。学生が2年次まで増えたことによる。

—南あわじキャンパス—



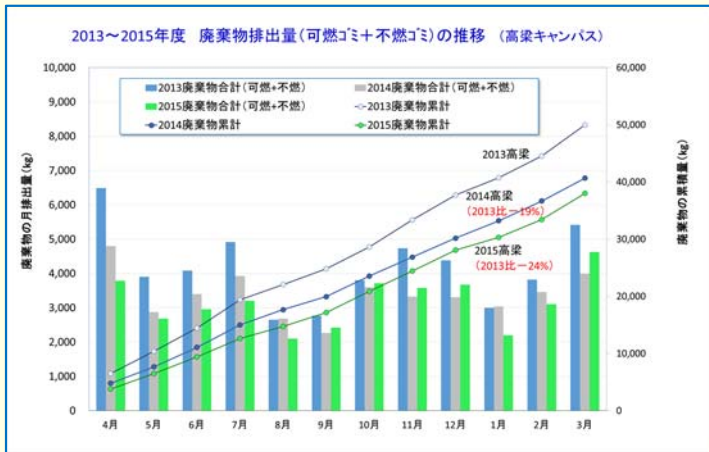
—岡山キャンパス—



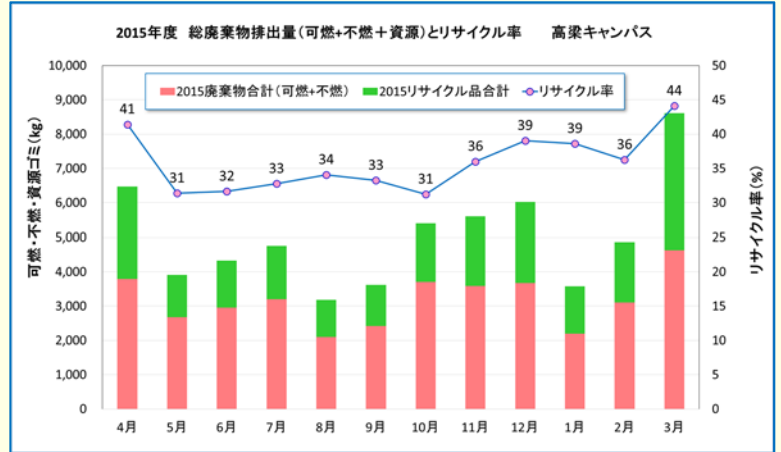
(5) 廃棄物(可燃ゴミ, 不燃ゴミ, 資源ゴミ)の排出量

—高梁キャンパス—

★ 排出量(可燃+不燃)の経年変化



★ 総排出量に占めるリサイクル率



★高梁キャンパス

2015年度の排出量(可燃ゴミ+不燃ゴミ)は、基準年度(2013年度)に対して、-24%の減少が見られ、単年度目標値(-1%)、中長期目標値(-2%)ともに達成した。リサイクルゴミを併せた総排出廃棄物量に占めるリサイクル率は毎月30%を超えていた。ゴミの内訳では、可燃ごみ+不燃ゴミ(53.3%)がリサイクルゴミ(46.7%)を上回った。

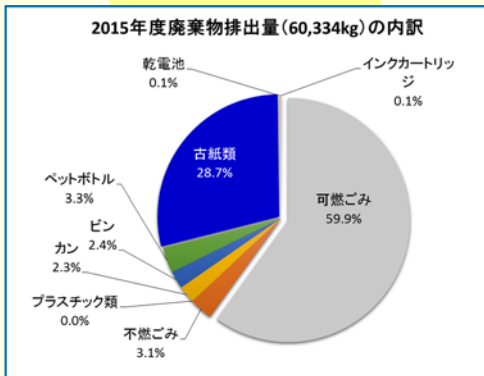
★南あわじキャンパス

廃棄物排出量の計測が2014年9月から開始され、2015年度は1年間の実績を得ることができた。総廃棄物排出量の内訳では、可燃ごみ(52%)に対し、リサイクルゴミ合計(47%)で高い資源化率を示した。

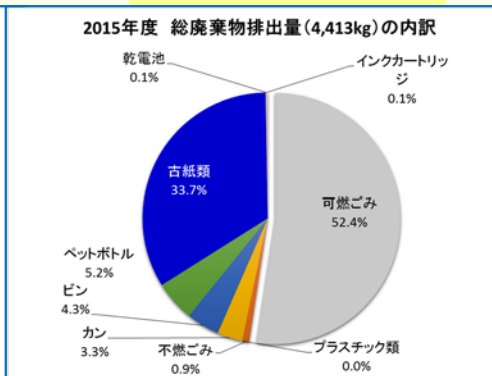
★岡山キャンパス

南あわじキャンパス同様に、2014年9月から排出量の計測が開始された。2015年度の内訳は、可燃ごみ(73.8%)に対して、リサイクルゴミ(25.7%)であり、高梁、岡山キャンパスとはごみ区分の排出が異なっていた。

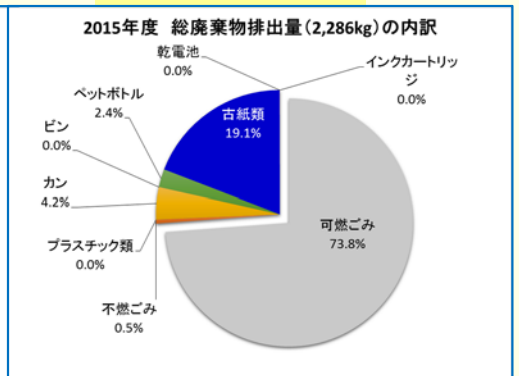
—高梁キャンパス—



—南あわじキャンパス—



—岡山キャンパス—



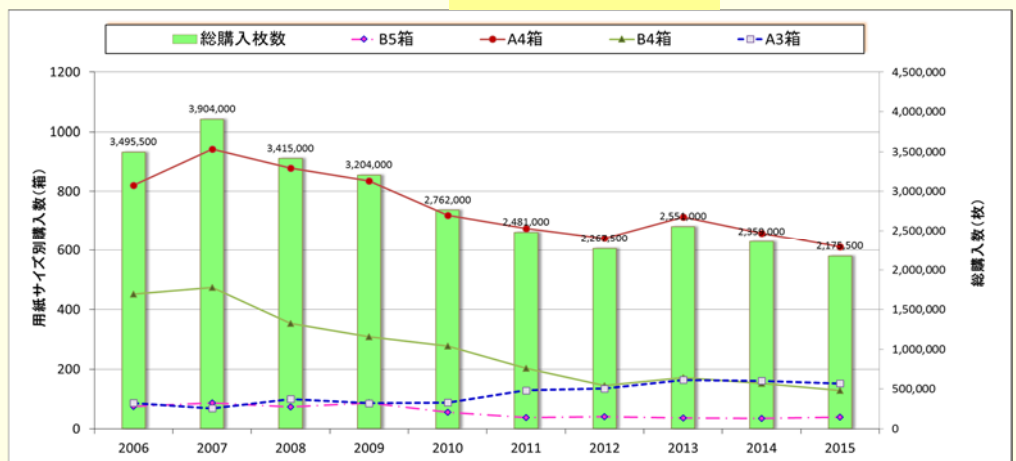
(6) 印刷用紙使用料(購入量)の経年変化

—高梁キャンパス—

—高梁キャンパス—

印刷用紙購入量は、データ測定開始以来10年間を経過して、一時増加に転じた時期(2013年度)があったが、その後は減少に転じている。

2015年度実績(2,175,500枚)は、基準年度(2013年度:2,551,000枚)に対して、-14.7%を示したことから、単年度目標値(-2%)を達成できた。



4-3. グリーン購入の推進の取り組み

吉備国際大学では、エコアクション21認証登録の期間に開始した「グリーン購入の推進」について、2011年4月より、目標（グリーン購入比率70%以上）と取り組み計画を設定して教職員に周知し、学内の「グリーン購入の推進」を継続的に進めています。

学内で使用する物品のうち、品目を指定して、グリーン購入等の該当商品を購入使用しています。また、学内で発注する印刷物の場合、再生紙を含んだ印刷用紙を用いて製本を行い、再生紙使用であることを明示するなどの仕様書を作成して、体制を整備しています。2015年度の対象品目に関するグリーン購入比率の実績は平均95.1%であり、目標値の「70%以上」を達成しました。

1. 吉備国際大学EMSで指定するグリーン購入対象品目

下記の文具類4品目を対象として、グリーン購入法適合マークやエコマーク認定等の印が付いている商品とする。これに、トイレットペーパーを加える。対象品目は今後も追加の予定である。

①紙製またはプラスチックのファイル ②ポストイット等の付箋紙 ③筆記具 ④修正テープ ⑤トイレットペーパー

2. コピー用紙

講義資料、学外への提出文書に使用するコピー用紙は全て再生紙（但し、混入割合は定めない）とする。

3. 学内外で使用する印刷物

報告書、実習ノート、手引き類、研究紀要、大学パンフレット、学生便覧等の印刷物を対象とする。再生紙の混入割合は特に定めない。印刷物には、再生紙使用の混入率マークを表記し、取り組みを学内外に周知する。

2015年度 グリーン購入実績		
対象商品数	品目	達成率
文具類	紙製ファイル	97.5
	プラスチック製ファイル	77.5
	付箋・ポストイット	98.3
	筆記具	97.3
	修正テープ	100.0
	トイレットペーパー	100.0
	全品の平均(%)	95.1

— グリーン購入法適合品とは —

国等による環境物品等の調達等の推進に関する法律(グリーン購入法)の特定調達品目およびその判断基準に適合する商品



— エコマーク商品とは —

「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品として(公財)日本環境協会が認定した商品



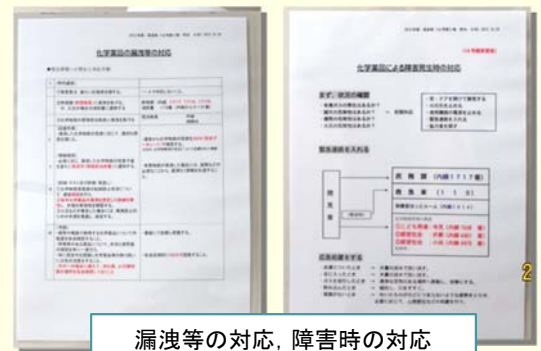
4-4. 化学物質の適正管理

吉備国際大学では、学内に保有する化学物質について、関連法令に基づき、担当の教員が保管管理を行っています。適正な管理状況が行われているか確認するため、毎年の内部環境監査前に委員会への管理簿提出を求めて状況把握を行っています。

さらに2015年度には、学内に保管される化学物質の安全対策の一環として危機管理体制を構築するため、化学物質保管管理場所に、化学物質事故を想定した対応と緊急連絡網等に関する情報の掲示を行いました。

化学物質保管庫付近に掲示された緊急事態の想定と対応手順の項目

- ◆化学薬品の漏洩等の対応
- ◆化学薬品による障害発生時の対応
- ◆緊急連絡先の一覧 (キャンパス別)
- ◆消化器, 火災報知器, AEDの設置場所(キャンパス別)



漏洩等の対応, 障害時の対応



避難経路, 消火器の設置場所

緊急連絡先 (大学, 行政, 病院等)

5. 環境活動計画と取り組み結果の評価

5-1. 目標達成のための具体的活動 (2015年度)

吉備国際大学では、10項目の環境目標について、それぞれ具体的な目標達成手段を決め、目標達成に向けて取り組みを行っています。さらに、それぞれの目標達成手段には、具体的活動内容を定めて活動を行っています。2015年度は現状に合わせた計画の見直しを図るとともに、ノーカーデー、環境美化デーなどを明確にしました。

環境目標	目標達成手段	目標達成のための具体的活動
1) 電力消費の削減	①不在時の電気使用の防止 ②無駄な電気使用の防止 ③省エネ機器の導入 ④節電の呼びかけ ⑤クールビズ、ウォームビズの推進	①スイッチ部分への消灯ステッカーの貼り付け
		②授業後教室の消灯の徹底を呼びかけ通達
		③不在時パソコンスイッチ切断の呼びかけ通達
		④パソコンへの節電ステッカーの貼り付け
		⑤消灯パトロールの実施
2) 化石燃料消費の削減	①無駄な化石燃料使用の防止 ②通勤、通学時の公共交通機関の利用の促進	①エアコン設定温度の省エネ設定掲示(冷房27℃、暖房20℃)
		③階段使用の推奨ステッカーの貼り付け
3) 二酸化炭素排出量の削減	①省エネルギー活動の推進	②建物改装時等における人感知スイッチの導入を検討
		①電気使用量の現状通知 ②ライトダウンの呼びかけ
4) 廃棄物管理及びごみの減量	①廃棄物管理システムの構築 ②リサイクルの推進 ③ごみ量の削減	①エアコン設定温度の省エネ設定掲示(冷房27℃、暖房20℃)
		①ガルーン配信と掲示による呼びかけ ②ノーカーデーの設定(毎月第3金曜日)
		①電力使用量の削減、化石燃料使用量削減活動に準じる
		②ガルーン配信と掲示による呼びかけ
		①廃棄物分別回収システム、計量システムの構築
5) 水使用量の削減	①無駄な水使用の防止 ②節水の呼びかけ	①分別の呼びかけ通達
		②分別状況の情報収集
6) 印刷用紙使用量の削減	①無駄な用紙使用の防止 ②伝達手段のペーパーレス化	③不要紙リサイクルの推進(収集方法の一元化)
		④ごみ箱の適正配置
		⑤プリンタインク、トナー、乾電池の回収ボックスの設置
		①施設の放置ゴミの見回り
		②ごみ減量ポスターの掲示
7) 化学物質の適正管理	①物質保有量・使用量の把握 ②管理強化	①無駄防止ステッカーの貼り付け
		②トイレ用擬音装置の設置
		①水使用量の現状通知
8) 環境教育の推進	①環境授業の開講 ②EMS研修の実施	①両面印刷の活用の推進(印刷室に張り紙)
		②無駄な用紙使用防止ステッカーの貼り付け
		③授業配付資料の厳選の通知
		④会議資料の削減
		⑤使用済み封筒を学内便として繰り返し使用の通知
9) グリーン購入の推進	①備品購入時における該当製品の購入	①電子会議の推進
		①種類・使用量・保管量・使用方法の把握と記録
		②適正管理のための共通基本方針の確認
10) 大学周辺の環境美化	①環境美化 ②吸い殻対策	①有害性化学物質の表示・保管等の管理の徹底
		②安全な取扱の教育・訓練
		③緊急時の連絡体制と避難経路の表示
8) 環境教育の推進	①環境授業の開講 ②EMS研修の実施	①環境関係授業の開講
		①学生オリエンテーション時に説明
		②教職員への説明
9) グリーン購入の推進	①備品購入時における該当製品の購入	③委託業者への説明
		①該当製品購入の呼びかけ
		①環境美化デーの設定(7月第3金曜) 教職員・学生による清掃活動
10) 大学周辺の環境美化	①環境美化 ②吸い殻対策	②ゼミ、サークルなどによる自主的の清掃活動
		①喫煙マナーの呼びかけと掲示
		②喫煙指導の実施

5-2. 環境目標の達成手段と取り組み状況の評価

ここでは、2015年4月から2016年3月にかけて取り組んだ活動の評価結果をまとめました。環境目標に対する取り組みは概ね達成されました。

重点取り組みとして、環境美化活動では、環境美化デーの設定(オープンキャンパス前の時期)により、各学科が主体的に活動を行いました。化学物質管理では、新たに、緊急時の連絡体制と避難経路に関する表示の徹底、化学物質管理規程の作成等について検討しました。

2015年度環境目標 (単年度目標値)	目標達成手段	取り組みの達成度
1) 電力消費の削減 2013年度比 -2%	①不在時の電気使用の防止	◎
	②無駄な電気使用の防止	◎
	③省エネ機器の導入	◎
	④節電の呼びかけ	◎
	⑤クールビズ, ウォームビズの推進	◎
2) 化石燃料消費の削減 2013年度比 -2%	①無駄な化石燃料使用の防止	◎
	②通勤, 通学時の公共交通機関の利用の促進	◎
3) 二酸化炭素排出量の削減 2013年度比 -2%	①省エネルギー活動の推進	◎
4) 廃棄物管理及びごみの減量 2013年度比 -2%	①廃棄物管理システムの構築	◎
	②リサイクルの推進	◎
	③ごみ量の削減	○
5) 水使用量の削減 2013年度比 -2%	①無駄な水使用の防止	◎
	②節水の呼びかけ	◎
6) 印刷用紙使用量の削減 2013年度比 -2%	①無駄な用紙使用の防止	◎
	②伝達手段のペーパーレス化	○
7) 化学物質の適正管理	①物質保有量・使用量の把握	◎
	②管理強化	◎
8) 環境教育の推進	①環境授業の開講	◎
	②EMS研修の実施	◎
9) グリーン購入の推進 購入比率70%以上	①備品購入時における該当製品の購入	◎
10) 大学周辺の環境美化 年1回以上の環境美化活動	①環境美化	◎
	②吸い殻対策	◎

取り組み状況の評価基準

◎: 達成している項目 ○: 概ね達成できた項目 △: 一部達成できた項目 ×: 達成できなかった項目

6. 環境教育の推進の取り組み

6-1. 全学の実施状況

環境目標に掲げている環境教育の推進では、環境関連授業の開講と環境教育研修を実施しています。春学期と秋学期の終わりに、各部局の実施状況を報告してもらい、結果を全学公表します。

2015年度の環境教育の実績（全学）は、科目数、1人当たり実施数、環境研修の実施数において、前年度実績を上回りました。1人あたり教育回数は、春学期より秋学期が少ない傾向でした。

★ 全学で実施した「環境関連科目」

(2016.3.1現在)

所属	学科	春学期の実績		秋学期の実績		取り組み実績の合計	
		科目数	受講学生数	科目数	受講学生数	科目数	受講学生数
社会科学部	経営社会学科	8	138	11	244	19	382
	スポーツ社会学科	1	81	1	81	2	162
保健医療福祉学部	看護学科	7	206	3	87	10	293
	理学学科	8	506	4	227	12	733
	作業学科	5	310	2	32	7	342
	社会福祉学科	7	118	6	130	13	248
心理学部	心理学科	3	70	0	0	3	70
	子ども発達学科	2	53	2	55	4	108
文化財学部	文化修復国際協力学科	2	6	2	16	4	22
アニメーション文化学部	アニメーション文化学科	4	41	4	69	8	110
地域創成農学部	地域創成農学科	9	285	5	135	14	420
外国語学部	外国学科	9	51	5	25	14	76
事務局	庶務部, スチューデントサポートセンター	—	—	—	—	—	—
合計		65	1,865	45	1101	110	2,966
1人当たりの教育回数(学生1932人, 教職員226人で算出)			0.97	—	0.57	学生数=1932	0.77

★ 全学で実施した「環境教育研修」

(2016.3.1現在)

所属	学科	春学期の実績		秋学期の実績		取り組み実績の合計	
		会議・オリエンテーション等	受講学生と教職員数	会議・オリエンテーション等	受講学生と教職員数	環境関連科目数	受講学生数
社会科学部	経営社会学科	8	655	7	650	15	1305
	スポーツ社会学科	3	312	2	46	5	358
保健医療福祉学部	看護学科	1	74	1	15	2	89
	理学学科	10	445	3	89	13	534
	作業学科	6	204	1	10	7	214
	社会福祉学科	3	25	2	16	5	41
心理学部	心理学科	5	115	2	36	7	151
	子ども発達学科	6	119	0	0	6	119
文化財学部	文化修復国際協力学科	4	35	2	10	6	45
アニメーション文化学部	アニメーション文化学科	5	145	6	59	11	204
地域創成農学部	地域創成農学科	6	190	4	202	10	392
外国語学部	外国学科	6	109	3	29	9	138
事務局	庶務部, スチューデントサポートセンター	5	14	5	14	10	28
合計		68	2,442	38	1176	106	3,618
1人当たりの教育回数(学生1932人, 教職員226人で算出)			1.13	—	0.54	学生数=1932	0.84

6-2. 環境関連科目の開講

(1) 全学環境関連科目のシラバス紹介

吉備国際大学では、大学の環境方針に沿い、環境に配慮して行動できる人材の育成を目指しています。2012年度からは全学共通基礎科目として、「環境科学」、「生命と環境」及び「人と環境」等が開講されており、全学的に環境理解教育が実施されています。

【2015年度・全学開講のシラバス】

授業科目名	環境科学		担当者	科目担当教員	
年次	1	履修期	2015年度 秋学期	単位数	2
テーマと到達目標	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、環境の変化により世界規模で流行が懸念される健康被害などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。				
概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では先ず生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持つことの様に対処すべきかを学習する。本講義では問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて行い、その対策について考えていく。				
評価方法	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。				
履修条件・注意事項	スライド等の映像を中心に講義を進めるのでプリント空欄への記入及びノートメモを取ること。スライド等の映像を中心に講義を進めるのでプリント空欄への記入及びノートメモを取ること。学習項目の予習と授業後の復習をすることで理解が深まる。				
春学期 授業計画			秋学期 授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境と人間のかかわりあい 2. 環境における人類の危機要因 3. 生態系と人間 4. 食物連鎖 5. 物質循環 6. オゾン層の破壊(原因、影響) 7. オゾン層の破壊(対策) 8. 皮膚と環境(構造と機能) 9. 紫外線(分類と作用) 10. 地球温暖化(原因) 11. 地球温暖化(影響) 12. 地球温暖化(対策) 13. その他の地球環境問題(酸性雨) 14. その他の地球環境問題(SPM) 15. その他の環境問題(現状と対策) 16. 定期試験 	

(2) 環境関連科目の実施事例(2015年度)

科目事例	環境関連教育の内容
消費・環境論	消費社会と環境問題の4テーマで講義し、学内調査や体験学習等を実践。
企業経営と環境倫理	経営倫理と環境倫理について学びながら、企業の社会的責任について教育した。
養護実習前のガイダンス	学校環境衛生検査について(飲料水やプールの水質検査等の方法等)
ボランティア論Ⅰ	環境汚染の実態とその改善に取り組むボランティアの活動について
病理学概論	たばこ、アスベスト、放射線と発癌の関連
里山総合演習Ⅲ	野外活動体験および野外活動についての指導の中で、環境保全および環境づくりについての教育をおこなった。
文化財保存環境科学Ⅱ	有形文化財の保存に影響する大気汚染物質等の具体的な内容を教授
数的理解入門	環境中有害物質の濃度単位の計算方法を説明し、具体的物質を取り上げながら、大気汚染、水質汚染、土壌汚染について概説
植物細胞生理学	地球の温暖化や世界の二酸化炭素排出、海面上昇、藻類を用いたバイオ燃料の開発動向などの解説

6-3. 環境教育研修の実施

EMS活動では、学内の構成員(教職員、学生、常駐委託会社職員)に向けて、環境教育研修を行っています。特に、春学期、秋学期の始まる4月、10月には、新入生の入学、教職員の採用や転勤等があります。オリエンテーション、学科説明、会議等を利用して、吉備国際大学のEMS活動に関する教育研修を実施しています。

(1) 新入生のオリエンテーションでEMSを紹介

4月入学式前に行われる全新生対象のオリエンテーションにおいて、EMS学生活動を行っている在学生在が本学のEMS取り組みについて説明を行っています。EMS取り組みを初めて耳にするということで、新入生は熱心に聞いています。



(2) 在学生の春・秋オリエンテーションで啓発

4月と10月の授業開始時期初日に実施される学科別オリエンテーションでは、学年ごとに学科教員がEMS活動の啓発を行っています。特に、適正なゴミ分別や省エネ、喫煙マナーの徹底などを呼びかけています。



(3) 新入留学生のオリエンテーションで紹介

4月、10月に入学してくる留学生の母国は従来の中国、韓国だけでなくインドネシア、ベトナム、スリランカなど、多国籍化してきています。そこで、留学生に向けて、独自にEMS教育の研修時間を設定し、ゴミ分別の違いや省エネ取り組み、喫煙マナーなどについて詳しく説明しています。大学のEMS活動は日本の環境社会のルールを守る上で役立つ情報です。



(4) 常駐委託職員にEMS研修の実施

吉備国際大学の3キャンパスには、「警備保障、清掃担当、コンビニ等売店、食堂」等において、各業務を委託している会社の常駐職員がいます。そこで、EMS活動への協力と啓発のために、10-12月にかけて、EMS委員が教育研修を行っています。EA21認証取得以降、研修を積み重ねてきた結果、EMS活動について大きな協力が得られています。EMS活動に関係する学内の状況や問題点などを情報交換することで、キャンパス内の改善に役立っています。



警備担当者にEMS活動協力を要請。喫煙、照明やエアコンの切り忘れ等に情報提供があります。



清掃担当者にEMS活動を説明。ゴミ分別の状況チェックや学内掲示の張り替え等に協力があります。



コンビニ店員にEMS活動への協力を要請。レジ袋削減の掲示や呼びかけに協力をもらいます。

7. 学内の環境美化と喫煙対策

7-1. 環境美化の取り組み

吉備国際大学の環境目標には大学周辺の環境美化を掲げて、月1回以上の環境美化活動を行うこととしています。これまで環境美化デーの設置をしていなかったことを踏まえて活動計画を見直し、**2015年度から具体的な時期として「7月の第3金曜日」を設定**しました。この見直しで、全学的な環境美化の取り組みがより明確になりました。

環境美化活動の実績

学部局:	学科・部署:	日程	件数	環境美化の取り組み内容
事務部門	キャリアサポートセンター	7月17日	1	スタッフ同で、開空付近全般の清掃をした。
	庶務部 地域連携センター	8月	1	8/22のオープンキャンパスに合わせて、6,7,11号館、体育館周辺及び弓道場前駐車場に至る道路周辺のゴミ拾いを中心とした清掃活動を実施。
社会科学	経営社会	7月7~31日	9	ゼミ単位で、清掃活動の日程・内容を決めて実施。①喫煙所清掃、②ごみ収集、③9号館の講義室や廊下の窓掃除、④美化、⑤キャンパス屋外のごみ拾い、⑥喫煙所の清掃、⑦喫煙と環境に関する意識のディスカッション。
	スポーツ社会	7月16日	1	健康スポーツコースの学生で実習室2か所の清掃を実施した。
保健医療福祉	看護	8月5日	1	学科会議で学年単位で清掃活動の取り組みを決定。参加者:教員と1年生全員。内容:7号館5階の基礎看護学演習室、成人看護学演習室、母性・小児看護学演習室、実験実習室の整頓と清掃活動を実施。
	理学療法	7月17日	1	参加者:全教員と有志学生 終日自由時間 内容:6号館1階の義士装具室と水治療室、7号館3階の物理療法室と理学療法セミナー室、7号館4階の運動療法室と生理機能評価室と生理学実習室の整頓と清掃活動、15号館周辺のゴミ拾いを中心とした清掃活動。
	作業療法	8月6日, 19日	1	臨床評価実習前のブラッシュアップ実習のための準備を行った。3年生で実験室Ⅱと織物教室の大掃除を行ない、その後テーブルと椅子を実習用に配置。
	社会福祉	7月は特に強化	1	「ポイ捨てされたたばこを拾う取組」、「廊下や教室のごみなどを目にしたら、拾って捨てる取組」を特に強化。
心理	心理	7月13~17日	1	各ゼミで環境美化デーの周知と自主的活動の呼びかけ。
	こども発達教育	7月13~17日	1	各ゼミで環境美化デーの周知と自主的活動の呼びかけ。
アニメーション文化	アニメーション文化	7月17日	1	学科教室清掃および14号館3階廊下近辺の清掃を行い、環境美化のレクチャーを実施。
文化財	文化財修復 国際協力	8月、9月	1	オープンキャンパス実施予定一週間前を環境美化デーとし、各ゼミで9号館実習室前と13号館文化財センター玄関付近の環境美化の自主的活動と周知の呼びかけ。
地域創成農学	地域創成農学	7月15日、4限	1	教職員および学生と大学周辺のゴミ拾い、草取り等を行った。
外国語	外国	7月12日	1	吹屋ふるさと村(長尾番油蔵・旧国際交流ヴィラ交流ホール・吹屋ギャラリー)を会場とする「2015 BENGALART」開催のため施設と周辺の清掃活動にボランティアで参加。



喫煙場所の清掃



講義室の清掃活動



高粱キャンパス内の道路の落葉清掃



地域創成農学部キャンパスへの道路のごみ拾いと除草作業の様子が学外の広報資料で紹介された。

7-2. キャンパス内の喫煙対策

キャンパス内は基本的に禁煙ですが、屋外の4か所に限定して喫煙場所を設置し、禁煙防止・ポイ捨て禁止の啓発用ポスターを掲示しています。2015年6月から、EMS学生委員会の発案で清掃用具を設置しました。



喫煙場所: 7号館2Fテラス



喫煙場所: 6号館西奥



喫煙場所: 9号館1F西階段下



喫煙場所: 国際交流会館裏



駐輪場の「ポイ捨て」禁止ポスター

8. 取り組みの様子

<岡山キャンパス> ※英語の併記

8-1. 学内へのEMS活動の周知

(1) キャンパス内のポスター掲示

高梁・南あわじ志知・岡山の3キャンパスには、各所(階段、廊下、エレベータ、講義室、教員研究室、印刷室、各事務室等)にEMS活動の啓発ポスターを掲示しています。掲示の内容は、吉備国際大学環境方針、室内温度設定の遵守、節水、節電、紙の節約、ごみ減量、ごみ分別、エレベーター利用の削減、喫煙マナー、トイレでの喫煙禁止、PC利用節電、コピー機の主電源OFF、レジ袋削減などで多岐に亘っています。

岡山キャンパスのEMS掲示
EMS活動の掲示ポスターは主体的に英語で表記。

高梁キャンパスの新たなEMS掲示
2015年度から全トイレに擬音装置を設置し、事前水洗を控える呼びかけポスターを掲示



(2) 環境教育研修資料の作成と配布

吉備国際大学のEMS取り組みを周知するために、学生、全教職員および常駐委託会社職員に向けた環境教育研修用の資料(4頁版)を作成し、オリエンテーションや各種の会議等で配布し活用しています。

近年は入学する留学生の多国籍化が進んでいるため、これまでの中国語や韓国語のバージョンに加えて、日本語のルビ付きバージョンを作成するなど、漢字圏外の学生のEMS研修にも対応しています。

中国語表記の資料(p1)

韓国語表記の資料(p2)

ルビ付き日本語表記の資料(p3)



8-2. 適切なごみ分別とリサイクル化

(1) ごみ分別の種類とキャンパスの状況

吉備国際大学では、ごみを6種類に分別しています。このうち4分別(可燃ごみ、不燃ごみ、カン・ビン、ペットボトル)のごみ箱をキャンパス内に設置しています。プラスチック類の扱いについては、学生の住所地域によって異なることが多いことから(燃えるごみ、燃えないごみ、プラスチック専用など)、学内の適正な分別が徹底されてない状況が見られています。ゴミ箱の表示をしっかりと確認してもらうよう、EMS研修では呼びかけています。

古新聞・古雑誌、雑紙、段ボール等の古紙類、乾電池やインクカートリッジは別途収集して、毎月秤量を行っており、リサイクル率の向上に努めています。

分別種類	ごみの種類	注意事項	
廃棄物	可燃ごみ (プラスチック類を含む)	紙くず、食品ごみ、木くず、布類、ペットボトルのフタ、プラスチック類(弁当容器、発泡スチロール容器、レジ袋、ポリ袋類、菓子袋、トレイ)、ビデオテープ、CD	★不燃ごみを投入しないこと ★カップ類の容器など、中身を空からして入れること
	不燃ごみ	割れたビン・ガラス、陶磁器類、ライター、刃物、金属類、油など汚れの落ちにくいカン・ビン	★割れたビン、ガラス類、刃物等は収集時に危険がないよう袋に入れて内容物を記載すること
資源物	カン・ビン	アルミ缶、スチール缶、スプレー缶(必ず穴をあける)、菓子缶、缶詰缶、コーヒー缶、飲料ビン、調味料のビン、コーヒービン	★容器の中身を空にすること ★PETボトルを投入しないこと
	ペットボトル	ペットボトル(液体飲料、調味料などの容器) (ペットボトルのマークがあるもの)	★ペットボトルのフタは可燃ごみへ入れること ★容器の中身を空にすること
その他	古新聞・古雑誌 ざつ紙・段ボール	古新聞、古雑誌(書籍含む)、段ボール、その他の紙類(印刷物、ファイル・インダー類、紙箱、包装紙、紙袋)ひもで十文字にきつく縛り、指定の集積場所へ	★できる限りシュレッダーにかけないでリサイクルに回すこと ★付属の金属・プラをはずすこと
	乾電池・蛍光灯 インクカートリッジ	乾電池 → 事務室設置の乾電池入れへ インクカートリッジ → 事務室設置の回収ボックスへ 蛍光灯 → 指定の収集場所へ	★不燃ごみに投入しないようにすること

★ごみになるものを買わない、大学に持ち込まないを徹底しましょう。
★ごみは必ず分別して、ごみ箱に投入して下さい。

環境マネジメント委員会

南あわじキャンパスのEMS取り組み

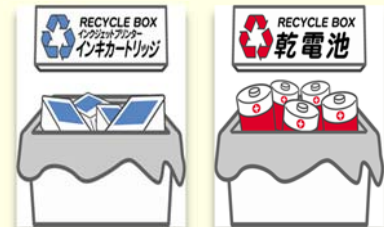
4分別のごみ分別箱が設置されている同フロアには、紙類の分別箱が独自に設置されています。(コピー用紙、雑誌、雑紙、段ボールの区分)



(2) インク及びトナーカートリッジ・乾電池の学内回収の体制

研究室や事務部署から排出されたインクカートリッジや乾電池は、学内に設置した回収場所に集められ、重量測定後に、委託業者を通じてリサイクルに回されています。(高梁CP:4か所、岡山CP・南あわじCP:1か所)。

回収・重量測定は、EMS活動に参加している学生(高梁CP)、或いは清掃委託業者の協力を得て、3キャンパスで実施しています。



8-3. 環境コミュニケーション

(1) 内部コミュニケーション

EMS組織内において、EMS活動の情報提供を行うとともに意見を受け付ける等、双方向に情報をやりとりしています。学内のウェブシステム(ガルーン)を利用した掲示板や学内メールで、教職員間の情報を共有しています。

常駐委託職員(警備・清掃・コンビニ)から、キャンパス内や講義室における不適切な状況や苦情を受け付けて、学内の改善を図っています。

(2) 外部コミュニケーション

外部からの環境に関する苦情や要望を受け付けて必要な対応を行い、その結果を記録しています。

EA21活動を開始した2009年以降、毎年環境活動レポートを作成して公表しています。

2015年度から、大学HP上で、EMS活動の紹介ページとブログを新たに開設しました。



8-4. EMS学生委員会の取り組み

吉備国際大学のEMS取り組み組織には、EMS学生委員会(通称:エコマネージャークラブ)が設置されており、学生委員会のメンバーがEMS活動に自主的に取り組んでいます。EMS学生委員会は取り組みや役割分担などを定例会で話し合いながら、日常的な活動とエコ啓発のイベントを行っています。

(1) EMS学生委員会の活動(高梁キャンパス)

◆学内のごみ残量調査

2月に一度、大学の講義室を回り、残されたごみを収集し、計量・記録。

◆新入生一同に向けて、オリエンテーションでEMS研修の実施

4月の新入生全体のオリエンテーションにおいて、本学のEMS活動の紹介を行うとともに、活動の協力を呼びかける(エアコンの適正な温度設定、エレベータ使用の自粛、ごみ分別の区分と実際ほか)。

◆使用済みの乾電池・印刷インクカートリッジ・トナーの回収

学内の庶務・教務などの部署に、使用済みの乾電池や印刷インクカートリッジの回収ボックスを設置している。定期的に回収し、計量・記録した後、引き取りを業者にリサイクルを依頼する。2014年から、岡山と南あわじキャンパスでも開始し、全学的に取り組んでいる。



定例会での話し合い



講義室内のごみ残量を回収



回収ゴミの秤量



学内から回収したインクカートリッジ、乾電池を秤量し、業者に引き渡す。

(2) 講義室内に放置されたゴミ残渣の経年的状況

定期的に、講義室に残っているごみを回収して、ごみの種類別に重量を計測しています(下表)。

2015年度は8.72kgのごみが講義室に放置されていました。

毎月ごとのデータでは、増減する月もありますが、毎年の合計比較をすることにより、着実に教室内の残渣ごみは減少していることが分かりました。教職員を初め、学生に意識の向上をしていく取り組みの重要性が示された結果と言えます。

(単位:kg)		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2015年度の 前年比較
4月	燃えるゴミ	1.45	1.47	1.00		
	プラスチック	0.32	0.52	0.22		
	ペット・缶	0.46	0.40	0.26		
5月	燃えるゴミ	1.38	1.18	0.72	0.39	-0.33
	プラスチック	1.00	0.24	0.45	0.83	+0.38
	ペット・缶	0.38	0.85	0.70	0.45	-0.25
6月	燃えるゴミ	1.40	1.08	0.80	1.15	+0.35
	プラスチック	0.32	0.27	0.16	0.04	-0.12
	ペット・缶	0.61	0.59	0.42	0.74	+0.32
7月	燃えるゴミ	1.70		0.00	0.86	+0.86
	プラスチック	1.00		0.00	0.10	+0.10
	ペット・缶	0.50		0.00	0.86	+0.86
10月	燃えるゴミ	1.10	1.70	1.30	0.44	-0.86
	プラスチック	0.40	0.34	0.34	0.01	-0.33
	ペット・缶	0.50	1.05	0.84	0.55	-0.29
11月	燃えるゴミ	0.92	0.80	0.90	0.52	-0.38
	プラスチック	0.34	0.45	0.02	0.12	+0.10
	ペット・缶	1.06	0.57	0.91	0.44	-0.47
12月	燃えるゴミ			0.67	0.80	+0.13
	プラスチック			0.10	0.02	-0.08
	ペット・缶			0.77	0.40	-0.37
1月	燃えるゴミ		1.08			
	プラスチック		0.27			
	ペット・缶		0.59			
年間 合計	燃えるゴミ	7.95	7.31	5.39	4.16	-1.23
	プラスチック	3.38	2.09	1.29	1.12	-0.17
	ペット・缶	3.51	4.05	3.90	3.44	-0.46
	合計	14.84	13.45	10.58	8.72	-1.86

(2016.3.10計算)

(3)キャンドルナイト・エコナイトの実施

★ キャンドルナイトin高梁

吉備国際大学と高梁市内の3高校（県立高梁高校・県立城南高校・私立日新高校）が合同で企画した、「キャンドルナイトin 高梁」が、毎年秋頃に、市内美観地区を流れる紺屋川沿いで開催されています。

EMS学生委員会では、大学の食堂から出る廃食用油と牛乳等の紙パックを使って、100%エコのキャンドルを製作しています。2015年で6回目となるこのイベントは、大学コンソーシアム岡山が所掌する事業「エコナイト」に連携して行っています。当日は点灯式が開会されたのち、大学生と高校生によって1000本を超えるキャンドルに一斉に火が灯されました。紺屋川の川面はオレンジ色の幻想的な空間に包まれていき、紺屋川とキャンドルの織りなす風景を写真撮影する参加者が多数見られました。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| ★2015年10月16日（金） | ★2014年10月17日（金） | ★2013年 10月4日（金） |
| ★2012年 7月28日（金） | ★2011年7月14日（金） | ★2010年7月9日（金） |



エコキャンドルの芯づくり



紺屋川沿いにキャンドルを並べていく



開会での点灯式の様子



EMS学生委員会の活動メンバー



10月16日（金）に、晩秋の紺屋川の川面を美しく清い明かりが照らし出しました。



★ クリスマスエコナイト

クリスマスを迎える12月には、毎年、キャンパス内にイルミネーションツリーが飾られます。ガラス瓶に入れたエコキャンドルを制作して夜の会場を「KIU」の文字で飾り、雰囲気づくりに協力していました。



2015/12/04



2015/12/04



2015/10/3



2015/12/04



2015/12/04



2015/10/3

(4)伊賀際でEMS活動の紹介

吉備国際大学の大学祭である「伊賀祭」に、ほぼ毎年、EMS活動の紹介パネルを展示しています。2015年度は10月31日～11月1日の期間中、5枚のパネルで環境方針や環境目標、取り組み状況について展示をしました。

9. 内部環境監査

(1) 監査の概要

吉備国際大学が運用する環境マネジメントシステムでは、環境経営システムの運用状況を中立的な立場から監査するために、「内部環境監査」を原則として年1回以上実施することが規定されています。環境マネジメント活動の取り組みを評価する「内部環境監査」は基本的事項であり、本学がEA21認証登録から独自のEMS活動に移行後も、継続実施しています。

(2) 監査の方法

『吉備国際大学EMSシステム文書』中の内部環境監査実施手順書に沿って、監査を薦めました。

今年度より、経営社会学科カリキュラムに「環境監査論」が開講されたことを受けて、受講学生らにより、内部環境監査の質問表が作成されました。監査では、EMS委員1名と内部環境監査手順を修得した経営社会学科学生が2名が1組となり、被監査者である学部長等に対して、環境目標達成の手段である環境活動計画が適切に実施されているか、実施記録が保管されているか、監査を行いました。監査者の学生は中国や韓国の留学生が交じっていて、監査の実際を体験しました。

監査実施日	2016年1月20日(水)～1月22日(金)
監査対象	7学部, 事務局
監査項目	①②環境管理責任者の役割, ③～⑥環境負荷の削減(電力消費, CO2削減, 水使用, 紙使用), ⑦環境教育の推進, ⑧環境美化, ⑨グリーン購入, ⑩⑪化学物質(適正管理, 緊急事態揭示), ⑫是正処置の対応(昨年度実績より)

(3) 監査の結果

EMSの規定や活動計画に示されている取り組みは全学的に概ね実施されていました。一方で、記録・回答の状況において、「無」「口頭説明」など、記録提示不十分のケースが多く見受けられました。監査時に、口頭で活動を行ったと説明があった場合でも、取り組み確認の判断ができませんでした。また、資料提示がある場合でも、活動不十分のケースがありました。EMS活動のEvidenceとなる資料の提示状況は、学部によって監査対応に違いが見られました。今回の監査結果は3月に、全学的に公表しました。

社会科学部の監査



保健医療福祉学部の監査



心理学部の監査



アニメーション文化学部の監査



地域創成農学部の監査



事務局の監査



文化財学部の監査



学生による監査結果のまとめ



8. 環境関連法規の遵守と違反状況，訴訟等の有無

本学に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果，違反はありませんでした。また，関係機関からの指導，利害関係者からの訴訟はありませんでした。

区分	法規制等の名称	該当する要求事項	判定
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物の許可業者への委託	合
		事業系一般廃棄物の許可業者への委託	合
		特別管理産業廃棄物の許可業者への委託	合
	家電リサイクル法	家電等廃棄時に再商品化をする者に引き渡す	合
	資源有用利用促進法 (PCRリサイクル法)	再資源化に努めること	合
	建設工事に係る資材の 再資源化等に関する法律	再資源化に努めること	合
排水	下水道法	水量，水質の変更時	合
		特定施設(教育・研究施設の洗浄施設)の設置の届け出	合
		特定施設の構造を変更した場合の届け出	合
		異常排水の排出への対応	合
化学物質	化学物質排出把握管理 促進(PRTR)法	PRTR対象物質を所定の規模以上取り扱っている場合	評価対象外
	毒物及び劇物取締法	研究のため特定毒物を使用する場合には，許可が必要	評価対象外
		盗難防止の措置	合
		飛散，漏洩，滲出，流出の防止の措置	合
		保管場所への毒劇物の表示	合
フロン排出抑制法 ※	エアコンなどの修理，廃棄時	合	
エネルギー	エネルギーの使用の合理化に 関する法律(省エネ法)	エネルギー管理統括者の選解任届け	合
		毎年度7月末までに中長期計画及び提起報告書の届出。	合
		床面積2千m ² 以上(第1種特定建築物)又は床面積3百m ² 以上(第2種特定建築物)の建物の新築，改築，増築時がある場合，省エネ措置等の適用を受ける	合
		計画・実施状況の公表	合
温室効果ガス	地球温暖化対策の推進に 関する法律(温対法)	毎年度7月末までに報告。	合
		計画・実施状況の公表	合
グリーン購入	国等による環境物品等の 調達に関する法律	環境物品等の調達方針	合
※2015年4月1日「フロン回収・破壊 法」の改正・施行による			

9. 環境代表者による全体評価と見直しの記録

(2015年4月～2016年3月)

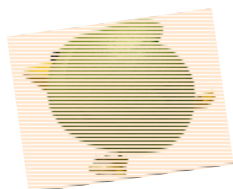
				代表者	総括環境管理責任者																																											
代表者による全体の評価と見直し (適切性、妥当性、有効性の評価)				(定期見直し：毎年事業年度終了後) 実施日：2016年5月30日	眞山 滋志 小田 淳子																																											
見直しに必要な情報				変更の必要性の有無・指示事項																																												
(管理責任者の報告)		(管理責任者のコメント・提案)		(代表者)																																												
【取り組み状況の評価結果】 環境活動計画の見直しを図り、取組みの実際性が高められた。高梁キャンパスの単年度目標は全体に達成できたと推量されるが、環境負荷項目で注視すべき施設別増加の状況が散見された。南あわじ・岡山の2キャンパスはEMS導入後、1.5年間の実績が蓄積された。 全学の内部環境監査結果から、①環境教育の推進(前年より科目増)、②化学物質管理(全学管理規程の策定)、③環境美化活動(美化デー決定による全学行動)の実施が確認されたが、根拠となる記録提示に不十分が認められた。内部環境コミュニケーションにより、ゴミ分別の全学的な不適切が指摘されており、新たな対応策の必要性が生じている。				【環境方針】 ・特に変更の必要なしと判断する。 ・環境意識の醸成、地球環境配慮の人材育成に向けて、活動の質的向上に努める必要がある。																																												
【問題点の是正処置及び予防処置の状況】 前年度の監査結果の指摘(環境美化、化学物質管理)を今年度の取り組みに反映できた。監査記録の提示で全体に不十分さが目立った。取り組みの不確実性をめぐえないものであり、実施記録は確実に残して監査対応する必要がある。				【環境方針】 ・変更の必要はない。 自主宣言による環境活動が開始されて以降、吉備国際大学独自の環境マネジメントシステムが順調に全学的な進展を図っていることは評価できる。																																												
【前回までの代表者の指示事項】 ・内部監査により発見された課題や提案を生かして環境活動の進展を図る。 ・「持続可能な人材育成」につながるよう環境教育の取り組みを進める。				【目標・環境活動計画】 ・環境目標(高梁キャンパス)は全ての目標値で達成したが、環境負荷項目に前年大幅増の施設(灯油・水力・電力)が散見された。要因を明確にして対応策をとると同時に、状況注視が必要である。 ・南あわじキャンパス(2016年度に完成年度を迎える)、岡山キャンパスは実績を踏まえながら、今後の目標設定につなげていく。 ・環境教育研修の機会は前年増であったが、ゴミ分別意識の低下や教室ゴミ増加等が随所で見られている。EMS活動の意識と取り組みの向上を学生に知らしめるための工夫策を検討する必要がある。 ・内部環境監査で確認した事項として、①取り組み記録の不十分への改善、②グリーン購入の取り組み周知を徹底する。																																												
【目標・環境活動計画の達成状況】 ※目標値は高梁キャンパスのみ (詳細は環境活動計画書による)				【目標・環境活動計画】 ・EA21審査終了後の2014年度から、3キャンパスでの取り組み実績が蓄積されてきている。現状にあった環境活動計画の見直しも行われる等、まずまずの状況にあるように判断される。今後も、目標達成に向けた取り組みの継続と進展を図られたい。 ・環境負荷低減だけでなく、環境方針である「持続可能な人材育成」につながるよう、現在の環境教育の取り組みを一層充実されたい。																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th>目標値</th> <th>環境活動の</th> <th rowspan="2">コメント</th> </tr> <tr> <th>達成状況</th> <th>取り組み状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電力使用量の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素排出量の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化石燃料の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>前年大幅増の施設を確認</td> </tr> <tr> <td>廃棄物の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>資源ゴミ排出量が増加</td> </tr> <tr> <td>水使用量の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>長期漏洩で大幅増の施設</td> </tr> <tr> <td>印刷用紙使用量の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化学物質の適正管理</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>グリーン購入の推進</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>対象品目の取組の周知不足</td> </tr> <tr> <td>環境教育の推進</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学周辺の環境美化</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>美化デーの全学行動 ○達成できた(取り組んだ) △一部達成できた(一部取り組んだ) ×達成できていない(取り組んでいない)</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	目標値	環境活動の	コメント	達成状況	取り組み状況	電力使用量の削減	○	○		二酸化炭素排出量の削減	○	○		化石燃料の削減	○	○	前年大幅増の施設を確認	廃棄物の削減	○	○	資源ゴミ排出量が増加	水使用量の削減	○	○	長期漏洩で大幅増の施設	印刷用紙使用量の削減	○	○		化学物質の適正管理	○	○		グリーン購入の推進	○	△	対象品目の取組の周知不足	環境教育の推進	○	○		大学周辺の環境美化	○	○	美化デーの全学行動 ○達成できた(取り組んだ) △一部達成できた(一部取り組んだ) ×達成できていない(取り組んでいない)	【その他の環境経営システムの各要素】 環境経営システムに現状と合致しない項目(4条3. 環境管理責任者の役割)の見直しが先送りされたため、検討する。	
目標項目		目標値	環境活動の		コメント																																											
	達成状況	取り組み状況																																														
電力使用量の削減	○	○																																														
二酸化炭素排出量の削減	○	○																																														
化石燃料の削減	○	○	前年大幅増の施設を確認																																													
廃棄物の削減	○	○	資源ゴミ排出量が増加																																													
水使用量の削減	○	○	長期漏洩で大幅増の施設																																													
印刷用紙使用量の削減	○	○																																														
化学物質の適正管理	○	○																																														
グリーン購入の推進	○	△	対象品目の取組の周知不足																																													
環境教育の推進	○	○																																														
大学周辺の環境美化	○	○	美化デーの全学行動 ○達成できた(取り組んだ) △一部達成できた(一部取り組んだ) ×達成できていない(取り組んでいない)																																													
【周囲の変化の状況】 地域創成農学部(3年生)、外国学部(2年生)の学年増で負荷項目の更新中。新規に地域医療福祉センターが開設された(14号館2F)。学生食堂が変更(3か所→2か所)になった。				【環境経営システムの各要素】 ・大学組織の現状に合わせて、変更見直しの必要がある。																																												
				変更の必要性： <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無																																												
				変更の必要性： <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無																																												

吉備国際大学
環境活動レポート 2015年度版

2016年10月30日 発行

編集：環境マネジメント委員長：小田 淳子
（社会科学部経営社会学科 教授）
E-mail oda618@kiui.ac.jp
TEL&FAX 0866-22-9387

発行：吉備国際大学 環境マネジメント委員会
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
TEL 0866-22-9454(代表)



高梁キャンパス

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
TEL.0866-22-9454(代表)



岡山キャンパス

〒700-0931 岡山県岡山市北区奥田西町5-5
TEL.086-207-2911(代表)



南あわじ志知キャンパス

〒656-0484 兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1
TEL.0799-42-4700(代表)



吉備国際大学
Kibi International University